

妖怪「赤舌」を描いたひなさんの作品



かのんさんの作品「ヨシガモ」



今にも飛び出しそうな絵を見詰める来場者。20日、那覇市天久の琉球新報本社



ひなとかのんの絵画展 盛況 27日まで天久の琉球新報社1階

広汎性発達障がい(ひなとか)の双子の中学生姉妹が描いた絵画を紹介する「天才児 ひなとかのんの絵画展」ハッタと鳥と妖怪とが20日、那覇市天久の琉球新報社1階ギャラリーで始まった。27日まで。入場無料。

ひなさんとかのんさんは、毎週木曜日(第3を除く)に琉球新報生活面に連載中の「6コマ漫画」天才児 ひなとかのんのおひさま日記」のモデル。黒ペンで妖怪を描くひなさんと、細かい描写で鳥・虫・花を描くかのんさんの作品計47点を展示している。

婦人会仲間と会場を訪れた島袋ひとみさん(47)は「私の娘もコミュニケーションが苦手な部分がある。私たちが分からないところもある」と思つて目を潤ませた。

23日午後2時から琉球新報本社2階ホールで、二人の母親で漫画の著者・森山和泉さんの特別講演会がある。入場料500円。別室でモニター視聴ができる親子席もある(要申し込み、先着10組)。親子席希望者は講演会実行委員会☎090(1-8883)6883まで。